



# コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県・市町				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H22 年度 経過年数 16 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営、委託、補助金											
補助率	1/3											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画 ]						
[解決すべき問題・課題] 飼育している「ふっくん・さっちゃん」の実の子(オス)は、兄弟(メス)が産卵するまで放鳥できない。また、野外コウノトリが将来にわたり安定的に繁殖するためには、餌となる動物の生息場所の状況などの確認が必要であり、それまでは飼育の継続が必要。						[問題・課題を表す客観的データ] 「野外コウノトリの繁殖が安定的に行われるか確認できるまで、餌資源調査等を実施しながら当面飼育を継続すべき」(専門家意見)						
[事業目的] 本県の自然環境の保全・再生のシンボルとして、コウノトリの野外定着を推進することを目的に、越前市白山地区でコウノトリの飼育を継続するとともに、放鳥コウノトリ等の位置情報の収集、および地域が取り組むコウノトリの生息環境整備を支援する。												
[事業内容] (1)コウノトリ飼育 兵庫県立コウノトリの郷公園から借受けたつがいのコウノトリについて、越前市白山地区において飼育を継続する。 外部委託による専任飼育員による継続的な飼育を行い、効果的に飼育を行う。 (2)放鳥個体の追跡の実施 平成27年から平成30年に放鳥したコウノトリに装着したGPS発信機を用いて、飛来位置を追跡する。 (3)コウノトリ会議の開催 県内でのコウノトリの生息環境整備に向け、県や市町による対策等の情報共有、報告を行い、協議する。 (4)コウノトリ定着推進支援 県内でコウノトリが定着できるよう、地域が取り組むコウノトリの生息環境づくりを支援する。(市町対象の補助金) 補助率1/3 事業期間3年以内(令和5年度～令和7年度の間)												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	野外コウノトリが定着・繁殖できるよう、越前市においては、ビオトープ整備など餌場環境の整備と地域住民への普及啓発に努め、県が主体で行っている飼育・繁殖事業については、越前市の職員を配置することにより、市と協同して事業を推進している。					他県の状況	-					

# コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之			
事業主体	県・市町				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務  <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分  <input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	H22 年度 経過年数 16 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度	
事業実施方法	直営、委託、補助金													
補助率	1/3													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	11,216			(繰入) 11,216		自然保護基金(振一)								
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>														
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移		12,109	10,981	10,967	10,979	11,216	救護コウノトリ個体の餌代の増							
2月現計予算額の推移		11,351	10,837	10,323	10,723									
決算額の推移		9,773	9,939	9,372										
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(R4)GPS等の削減</li> <li>・(R5)飼育費用の精査、補助金の追加</li> <li>・(R6)旅費単価およびGPS発信機使用料単価の増</li> </ul>												
[成果指標等の推移]														
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	県内で生まれたヒナの野外 放出数	(目標) (2)	(2)	(2)	(2)	(2)			県内で生まれたヒナが野外へ飛び立つ数(H27~H30は飼育ペアから生まれたヒナを野外放鳥、R01からは野外ペアから生まれたヒナが巣立ち)					
		実績 7	12	13	15									
活動指標	ビオトープ等設置個所数	(目標) (2)	(2)	(2)	(2)	(2)			巣塔またはビオトープの設置数					
		実績 2	4	3	2									
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価						
・ヒナの野外放出数について、令和6年度において越前市、越前町、小浜市、鯖江市で8ペアのコウノトリから計15羽のヒナが巣立っており、成果指標は達成した。 ・また、ビオトープを2か所設置したことから活動指標は達成した。				令和6年度同様に事業を行う				<input type="checkbox"/> 拡充		<input type="checkbox"/> 縮減		<input type="checkbox"/> 終期の見直し		見直し額
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続		<input type="checkbox"/> 休止		<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合		<input type="checkbox"/> 廃止		<input type="checkbox"/> その他		

# 三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	三方五湖自然再生協議会、北潟湖自然再生協議会				事務区分	■ 自治事務	事業区分	<input type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度
事業実施方法	負担金											
補助率	1/4											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野〔 4 住みやすさを高める(地域力) 〕 政策〔 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 〕				関連する県の計画等		〔 福井県環境基本計画 〕					
[解決すべき問題・課題] 協議会への参加者の高齢化と固定化、協議会事業における産業(なりわい)に結び付いた自然再生の推進						[問題・課題を表す客観的データ] フナ・コイ等の水産資源の漁獲量は減少(平成25年に約18t→令和2年は約2.3t)しており、美浜・若狭町で三方五湖で捕れた魚介類を提供する飲食店数は11店舗ほどである。三方五湖におけるエコツアーのほか、地域資源を活かした商品や取組みを進め、拡大していくことが地域活性化に求められる。 三方五湖協議会の主メンバーである漁協組合員の数も高齢化で減少(H25:105人→R2:91人)。 北潟湖でも地域のすぐれた自然等を内外にアピールできるエコツアーはほとんど実施されていない状況。						
[事業目的] 三方五湖では「三方五湖自然再生協議会(平成23年5月設立)」、北潟湖では「北潟湖自然再生協議会(平成30年11月設立)」において、地元市町と地域住民、農漁業者、研究者および県、市町が協働して地域に即した自然再生を行い生物多様性の保全を行うとともに、保全活動の成果や地域の自然の魅力を全国にアピールしていく。												
[事業内容] ○あわら市、農漁業者、地域住民、大学研究者が協働して北潟湖の自然の保全、再生、活用を行う ①負担金対象者 北潟湖自然再生協議会 ②負担金額 1,000千円(事業総額 4,000千円(国1/2、県1/4、あわら市1/4)) ③活動内容 北潟湖自然再生協議会全体会の開催、北潟湖自然再生実施計画の実施 水質改善、外来種駆除と希少な水棲昆虫の保全、小学生を対象とした環境学習の推進等  ○三方五湖自然再生事業実施計画に基づき三方五湖の自然の保全、再生、活用を行う ①負担金対象者 三方五湖自然再生協議会 ②負担金額 2,000千円(事業総額 8,000千円(国1/2、県1/4、若狭町1/8、美浜町1/8)) ③活動内容 三方五湖自然再生協議会全体会の開催 自然護岸再生、外来種対策、濁水防止のための普及啓発、水田養魚による地元産のフナ・コイの増殖、子どもラムサール(環境教育)の推進等												
[受益者] 三方五湖周辺の住民、北潟湖周辺の住民						[想定される受益者数] 約4万人						
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 三方五湖・北潟湖生物生息環境再生事業 (実績) [三方五湖]・法定協議会「自然再生協議会」の設立(H23.5) ・自然再生フォーラムや観察会等の開催、カヤ田の保全、ヒシ刈り等の実施(H25~H27) ・ヒシの管理指針の作成(H27) ・水田養魚のマニュアルの作成(H27) [北潟湖]・「北潟湖の自然再生に関する協議会」の設立(H25) ・水田魚道の設置、魚類の育成効果を検証、地域の子供対象の魚観察会(H25~H27)、フォーラム・エクスカージョンの開催(H27)				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況		三方五湖自然再生協議会では、若狭町と美浜町が県とともに事務局を担い、負担金を拠出している。 北潟湖自然再生協議会では、あわら市が事務局を担い、県とともに負担金を拠出している。				他県の状況		-				

## 三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之		
事業主体	三方五湖自然再生協議会、北潟湖自然再生協議会					事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	□ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	負担金												
補助率	1/4												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	3,000			(繰入) 3,000		自然保護基金(振一)							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>													
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	—						
2月現計予算額の推移		3,000	3,000	3,000	3,000								
決算額の推移		3,000	3,000	3,000									
前年度までの 主な増減理由		—											
[成果指標等の推移]													
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	協議会の開催	(目標) (3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	三方五湖自然再生協議会全体会の開催(1回/年) 北潟湖自然再生協議会全体会(2回/年)				
		実績 4	3	3	3								
活動指標	自然再生活動数(部会開催数)	(目標) (27)	(27)	(27)	(27)	(27)	(27)	(27)	三方五湖 18回(各6部会×3回/年)開催 北潟湖 9回(各3部会×3回/年)開催				
		実績 25	24	25	26								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価					
・協議会開催は3回実施したことから成果指標は達成できた。 ・自然再生活動数は26回実施したことから概ね活動目標は達成した。 <事業による要因> 年間の部会活動内容が例年と同一である部会において、活動状況共有のための部会を省略し、開催数を縮減したことによる。				活動状況共有の場を定期的に設けること、対面形式が難しい場合はオンラインにて行うことなど、部会開催に関する適切なアドバイスを行う。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

# 「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	□ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	補助金											
補助率	10/10											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画 ]						
[解決すべき問題・課題]  自然再生団体の活動がなくなることで、絶滅の恐れが高まる種が増え、子どもたちが地域の生きものや自然環境について学ぶ機会が減る。						[問題・課題を表す客観的データ]  大野市のクロシジミ(チョウ、県域絶滅危惧Ⅰ類)や、美浜町のヒラサナエ(トンボ、県域絶滅危惧Ⅰ類)は、県内唯一の生息地において活動していた自然再生団体の活動が無くなり、絶滅の危機に瀕している。						
[事業目的]  地域と小学校が協働し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うため、子どもたちが地域の自然再生団体とともに継続的に身近な生きものの調査・保全活動を行う。絶滅の恐れのある生物の保全と、若い世代の教育を目指す。												
[事業内容] (1)調査対象および内容 地域の宝となる希少な生物(県絶滅危惧種)を含む生き物の調査と保全について、地元の自然再生団体の協力を得なければ継続的に実施することが困難な活動を対象  (2)支援内容 ○補助対象 自然再生団体 10団体 ○補助内容 ・身近な生き物調査と保全活動および小学校での観察会の開催経費 ・生きもの観察調査資機材への助成 ・生き物の生息環境整備に必要な資機材												
[受益者] 県内小学校児童						[想定される受益者数] 年間350人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 身近な生きもの生息環境調査事業 (実績) 県内7ブロックごとに、身近な生きもの調査をするモデル校を指定し、トンボ、メダカ、積雪量の共通調査と学校独自の学校別調査を実施。 県内8小学校(302人)が参加。					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	・市町教育委員会との連絡					他県の状況	-					

# 「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	□ 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度		
事業実施方法	補助金												□ 法定受託事務	□ その他
補助率	10/10													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	2,000			(繰入) 2,000		環境保全基金								
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>														
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—							
2月現計予算額の推移		2,000	2,000	1,600	2,000									
決算額の推移		1,668	1,534	1,550										
前年度までの 主な増減理由		—												
[成果指標等の推移]														
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	参加児童数	(目標)	(350)	(350)	(350)	(350)	(350)	(350)						
		実績	365	390	300	230								
活動指標	支援団体数	(目標)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	補助対象件数:10者					
		実績	9	8	8	9								
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価						
成果指標はR7.2月末時点の実績であり、達成しない見込み。 支援団体数は9団体となる見込みであり、活動指標は達成できなかった。 <外的要因>コロナの影響で、自然再生団体、学校ともに、活動が十分に できない期間が続いたため、以前に比べて地元内で連携して活動する 機会がまだ少ない状態と考えられる				地元内での連携や環境整備の手法に悩む自然再生団体が あれば、他団体の事例を踏まえ、地域による身近な自然環 境の保全・再生の取組みが行われるよう支援を行う。				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額			
								■ 継続	□ 休止	□ 完了				
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他				

## 三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H30 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	委託											
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等		[ 福井県環境基本計画 ]					
[解決すべき問題・課題] 三方五湖の最上流部に位置する三方湖において、近年、湖面をほぼ埋め尽くすほどにヒシの分布が拡大している。三方湖のヒシ発生に伴い、漁業のための航路阻害や湖辺に堆積するヒシの枯死体から発せられる悪臭などの社会的問題、ヒシの群落内における水中の貧酸素化による生態系の悪影響、湖景観への悪化を解消することが必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 三方湖におけるヒシの専有割合 2017年 73.4%、2018年 40.2%、2019年 42.8%、2020年 0.1%、 2021年 42.2%、2022年 48.0%、2023年 0%、2024年 0% ※抜取り作業実施後						
[事業目的]  三方湖のヒシの低密度管理につなげるため、強度のヒシ抜取りを実施する。												
[事業内容] ①ワイヤー抜取り ・実施時期:5～7月 ・ヒシの発生、繁茂状況を予測、確認し、ヒシの葉が湖面を覆う前に発芽区域全体で抜取り、刈取りを行う。 ・漁船に装着したワイヤーを引きながら、水深1～2mで葉が水面に出てくる前の若いヒシの茎を抜取る。  ②ヒシの回収 ・抜取りや刈取りをしたヒシのうち、漂流し漁業等に支障をもたらすヒシは回収し、陸揚げして処分する。												
[受益者] 三方五湖周辺の住民						[想定される受益者数] 約1.3万人						
前事業の有無・実績		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (実績) -				事業名		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (役割分担) ヒシの適正管理を行う手法開発として、平成25年から平成27年において、ヒシ刈取り専用船によるヒシ刈り実施試験の成果として「ヒシ対策ガイドライン」を作成。平成28年度からは、ワイヤー刈りによる低コストで効果的な管理手法の実証研究を実施。		事業名 三方五湖・北潟湖自然再生事業		
市町との連携状況		若狭町に事業費の一部を負担してもらい、連携して実施				他県の状況		○長野県 諏訪湖に係る第6期水質保全計画(平成24年度から平成28年度) 「水草刈取船による諏訪湖のヒシ除去工事の実施(H25～長野県諏訪建設事務所)」 諏訪湖創生ビジョン (R5.3月改定) 「諏訪湖創生ビジョン推進事業にて湖内のヒシの除去(R5～)」 ○千葉県 印旛沼に係る湖沼水質保全計画(第7期 平成28年～32年) 「印旛沼におけるオニビシの刈取り実施」				



## 三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H30 年度 経過年数 8 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	8,684	5,210		(負) 1,737	1,737	電源交付金、若狭町						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		12,109	10,916	9,859	9,149	8,684	作業日数の見直しによる減					
2月現計予算額の推移		11,351	10,679	9,859	9,149							
決算額の推移		10,921	10,679	9,486								
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(R5)作業日数の見直しによる減</li> <li>・(R6)作業日数の見直しによる減</li> </ul>										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	ヒシ繁茂面積(ha)	(目標) (34) 実績 150	(34) 170	(34) 0	(34)	(34)	(34)	(34)	三方湖ヒシ対策ガイドライン(三方五湖自然再生協議会外来生物等対策部会)のゾーニング計画に沿い、三方湖湖面の10%程度の面積にする。(※H18年~28年の間のヒシの最小繁茂面積(34ha)に相当。)			
活動指標	ヒシ刈取り面積(ha)	(目標) (240) 実績 76	(240) 63	(240) 103	(128) 199	(128)	(128)	(322)	128haのヒシを毎年の刈り取りの目安とする。(生活環境被害、漁業被害に関わるエリアの面積に相当) ※R6年度以降			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は、令和5年度に引き続いて、他の年度に比べてヒシの量も少なく、広い面積において局所的に繁茂しているヒシの除去が進み、成果指標・活動指標ともに達成した。</li> <li>・一方で、繁茂具合はその年の湖の塩分濃度などにも影響されるため、継続したモニタリングが必要。</li> </ul>				ヒシの繁茂状況は塩分濃度などにも影響されるため、令和7年度においても、ヒシの抜取りに向けて体制を維持し、引き続き、生態系被害の防止のため県主体で抜取りを実施する。今後とも、湖の埋土種子を減らしていくことで、生活環境への影響、漁業被害、景観への影響など抜取り・刈取り優先度の高い場所から、順次ヒシの低密度管理がなされるエリアを拡大させていく。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	465	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R10 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	〔 福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 〕						
[解決すべき問題・課題]  里山里海湖の資源を守るためには、専門的な学問や科学の支えが重要であり、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける様々な研究が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ]  里山里海湖の恵みを暮らしに結びつける研究者数 4人						
[事業目的] 年縞や豊かな自然環境など、本県が誇るべき里山里海湖による恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの承継につなげるため、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。												
[事業内容] 4名の研究者が、以下の分野において、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。  <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div>【環境考古】 … 年縞を基に、自然、歴史をひも解き、自然と人の暮らしとの関わりを明らかにする研究を推進</div> <div>【保全生態】 … 里山、里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究</div> <div>【森里川海連環】 … 里海湖の原風景と利活用の歴史を明らかにし、保全・再生活動に結び付けるための研究</div> <div>【里地里山文化】 … 里に伝わる伝統(農法、漁法等)、文化、習俗等の資料を収集、活用して、県民の生活や里山里海湖の資源を生かした経済活動につなげる研究</div> </div>												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 実学研究推進事業 (実績) これまでの研究成果についての県民および各地域への発表会の実施および、地域における協議会等への参加などを通じて、研究成果の地域への還元に取り組んでいる。 30年度より、研究員が開発した効率的なヒシ刈り手法により三方湖でヒシ刈りを実施。					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担) -					
市町との連携状況	研究の実施において、市町関係施設等との連携を図っている。					他県の状況	県レベルでの里山里海湖に関する研究を行う組織は他県にはない。					

## 実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R10 年度
事業実施方法	直営			経過年数								
補助率	-			7 年								
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	6,602	1,640		(繰入) 4,962		科学研究費補助金、自然保護基金(振一)						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	8,000	6,615	6,615	6,602	6,602	—						
2月現計予算額の推移	6,080	4,293	6,008	6,193								
決算額の推移	5,381	3,568	5,249									
前年度までの 主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(R4)必要経費の見直しによる減</li> <li>・(R6)必要経費の見直しによる減</li> </ul>											
[成果指標等の推移]												
区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	(目標)							5年間の研究期間の途中年度毎に研究成果を数値化することは困難				
	実績											
活動指標	研究テーマ数	(目標)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	各研究員が研究項目ごとに研究を行う			
		実績	4	3	4	4						
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
研究成果に基づく自然再生事業実施件数 4件 ・伝統知を活かしたなぎさの再生事業 1件(美浜町事業1件) ・コイ・フナ育成田事業 1件(指針に基づいて地元小学校で実践) ・アブラギリ利活用研究を若博にて公開 1件 ・寒ぶな缶詰の取組がグッドデザイン賞受賞 1件				今後も成果が出るように引き続き事業を継続していく。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等		[ 福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 ]					
[解決すべき問題・課題]  里山や里海湖を使った気軽な自然体験の中で環境教育を推進するため、民間団体等が主体となって質の高い体験サービスを提供できるようにする必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ]  学びの森・海湖登録団体36団体(公共的団体7団体を除く)のうち、 ・活動を生業としている団体数 12団体/36団体 ・生業ではないが精力的に活動している団体数 12団体/36団体						
[事業目的]  福井ふるさと学びの森・海湖における体験活動をとおして、人の暮らしと里山・里海湖との関わりや森と海湖のつながりを学ぶ機会を提供し、県民の里山里海湖保全の意識醸成につなげる。												
[事業内容]  福井ふるさと学びの森・海湖ネットワーク事業 福井ふるさと学びの森・海湖登録団体の活動内容のレベルアップを図り、県内外での集客力を高めることで、森と海湖のつながりを学べる環境づくりを推進する。 ①県内外への情報発信:ア 県外向け広報 イ 県内向け広報 ②安全性の向上のための合同研修会兼情報交換会を開催:学びの森・海湖団体で合同開催(1回)  福井ふるさと学びの森・海湖活性化プロジェクト 登録団体の活動を活性化させるため、体験会を開催												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「福井ふるさと学びの森」事業、NW事業 (実績) (1)県直営の学びの森3か所(若狭町、あわら市、奥越)を運営(奥越は自然保護センターと共催)し、一般県民を対象とした年間体験プログラムを実施 (2)学びの森登録団体への支援					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)				
市町との連携状況						他県の状況						

## 福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,309			(繰入) 3,309		環境保全基金						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		3,850	2,236	2,282	3,258	3,309	チラシ作成・郵送料単価の増					
2月現計予算額の推移		3,390	979	1,498	2,075							
決算額の推移		3,111	923	1,248								
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(R4)若狭エリアの直営を廃止</li> <li>・(R5)活性化プロジェクトの追加</li> <li>・(R6)活性化プロジェクトの団体増加</li> </ul>										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	学びの森・海湖活性化プロジェクト参加者数(延べ数)	(目標)		(5)	(10)	(10)	(10)	(40)	5年度は1団体5人、6年度～8年度は2団体10人、9年度は1団体5人(延べ40人)			
		実績		5	11							
活動指標	ネットワーク事業開催回数	(目標)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(5)	森、海湖合同で1回			
		実績	1	1	1	1						
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
成果指標、活動指標とも目標を達成した。 ・ネットワーク事業を竹田地区にて開催 ・活性化プロジェクトを2団体にて開催し、参加者数は目標を越えた。				-				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 ]						
[解決すべき問題・課題] 里山の利活用が減り、「里山の奥山化」が進行し、獣害発生の一因となっているため、少人数、高齢者でも取り扱いの可能な里山整備資機材の利用普及により、適正な里山管理の支援が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] ウッドチップパー、薪割機、炭化炉 延べ機材貸出し回数(利用者数) R2 70回貸出し(47団体・個人) R3 73回(47団体・個人) R4 58回貸出し(39団体・個人) R5 74回(46団体・個人)						
[事業目的] 人の手が入らなくなり荒廃が進む里山の保全・再生および資源利用の推進のため、県内の里山の保全・再生活動に取り組んでいる方を対象に、里山保全活動用資機材の貸出しを行っている。ニーズの高い資機材のうち、耐用年数を向かえた一部を更新し、里山保全活動者の利便性を向上させ、県内の里山の保全・再生を促進する。												
[事業内容] (1)県内3地区で貸出業務を実施 ○貸出拠点 3ヶ所(福井地区、丹南地区、嶺南地区)で貸出 ・福井地区、丹南地区は委託により実施、嶺南地区は直営で実施 ○貸出資機材(現状) 福井地区 ウッドチップパー2台、薪割機2台、炭化炉4台 丹南地区     "     1台、" 1台 嶺南地区     "     1台、" 1台、炭化炉2台												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績						関連事業の有無・役割分担						
<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有     事業名   森と海湖のつながり体感事業 (実績) 資機材貸出件数(H30) ウッドチップパー(4台) 47回 薪割り機(4台)     25回						<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有     事業名 (役割分担) -						
市町との連携状況						他県の状況						
-						-						

## 里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之				
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務		事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他		事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度	
事業実施方法	直営														
補助率	-														
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等									
予算額	1,606			(繰入) 1,606		環境保全基金									
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>															
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由								
当初予算額の推移		2,888	1,446	1,504	1,550	1,606	点検料の値上がり等								
2月現計予算額の推移		2,300	1,446	1,504	1,550										
決算額の推移		2,300	1,434	1,503											
前年度までの 主な増減理由		・(R5)点検料の値上がり等 ・(R6)点検料の値上がり等													
[成果指標等の推移]															
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠						
成果指標	貸出回数	(目標) (60) 実績 73	(60) 58	(60) 74	(60) 58	(60)	(80)	(100)	ウッドチップパー、薪割り機、炭化炉の貸出が毎月5回						
活動指標	貸出し拠点数	(目標) (3) 実績 3	(3) 3	(3) 3	(3) 3	(3)	(3)	(3)	嶺北、嶺南各1か所 令和2年度以降は嶺北2か所、嶺南1か所						
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価						
・活動指標は目標を達成した。 ・成果指標である貸出回数はR7.2月末時点で58回であり、3月の予約を含めると目標を達成する見込みである。					-				<input type="checkbox"/> 拡充		<input type="checkbox"/> 縮減		<input type="checkbox"/> 終期の見直し		見直し額
									<input checked="" type="checkbox"/> 継続		<input type="checkbox"/> 休止		<input type="checkbox"/> 完了		
									<input type="checkbox"/> 整理統合		<input type="checkbox"/> 廃止		<input type="checkbox"/> その他		

# 生態系保全のための特定外来生物防除事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度
事業実施方法	委託											
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画 ]						
[解決すべき問題・課題] 生態系や人の身体等へ被害を与える、またはそのおそれがある特定外来生物が、県内の広い地域で侵入・分布拡大。希少種が生息する地域でも特定外来生物の侵入・個体数増加が見られ、希少種およびその場所の生態系に重大な影響が及んでいる。						[問題・課題を表す客観的データ] 17市町全てに、特定外来生物に指定される生物が侵入(環境省 令和5年度「特定外来生物の市町村別侵入状況の把握のためのアンケート」調査) (例)爬虫類…アカミミガメ:10/17市町 両生類…ウシガエル:6/17市町 魚類…オオクチバス:15/17市町 甲殻類…アメリカザリガニ:15/17市町 植物…オオキンケイギク:17/17市町						
[事業目的] 特定外来生物の侵入・個体数増加によって希少種の生息環境に重大な影響が及んでいる場所について、特定外来生物の防除を行い、生態系の保全につなげる。												
[事業内容] 特定外来生物の防除の実施 (1)防除実施場所:坂井市内 対象となる特定外来生物:アメリカザリガニ 実施内容:小規模な水系において、捕獲装置と水抜き等を組み合わせた捕獲・防除を行う  (2)防除実施場所:越前町内 対象となる特定外来生物:アメリカザリガニ 実施内容:閉鎖水系において、水抜き等を行うことで捕獲・防除を行う												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)				関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業 (役割分担) 本事業では、地域の自然再生団体と小学校が協働して行う、地域の身近な自然環境・生きものの調査・保全活動を支援し、希少種の保全・再生とともに若い世代が地元の貴重な自然を実践的に学ぶ機会の提供につなげる。				
市町との連携状況		県、市町それぞれにおいて、地域・場所の実情を踏まえた役割分担・取組みを必要に応じて行っている。県においては希少な動植物が生息・生育している地域において、管理者や自然再生団体等と連携・協力して希少種を守るための防除を実施。市町においても、河川敷・道・池など身近な場所で、地域住民や関係団体などとともに駆除・防除等を実施。 本事業での防除活動の実施にあたっては、対象地の市町と連携を行う。				他県の状況		<input type="checkbox"/> 愛知県 ・県内でこれまでに確認されている特定外来生物について、基本情報や防除方法等をまとめたハンドブックを作成  <input type="checkbox"/> 岐阜県 ・緊急的な防除の必要のある外来生物を定め、市町村とともに防除 ・そのほか市町村が行う外来生物駆除活動に対して補助(補助率1/2)				



## 生態系保全のための特定外来生物防除事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之			
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度		
事業実施方法	委託													
補助率	-													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	1,500	1,500				生物多様性保全推進交付金								
[予算額の推移等]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移			-	-	-	1,500	1,500	—						
2月現計予算額の推移			-	-	-	1,250								
決算額の推移			-	-	-									
前年度までの 主な増減理由		—												
[成果指標等の推移]														
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	事業実施地域で確認される希少種 数(種/年)	(目標)	-	-	-	(2)	(2)	(2)	(2)	防除実施地域1か所につき、希少種1種の保全を目指す				
		実績	-	-	-	2								
活動指標	特定外来生物の防除・低密度化に 取り組んだ地域(箇所/年)	(目標)	-	-	-	(2)	(2)	(2)	(2)	本事業での防除実施地域数				
		実績	-	-	-	2								
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和7年度の変更点					事業評価				
・令和6年度の希少種保全、外来生物防除事業は2地域において特定外来生物の防除に取り組んでおり、活動指標を達成した。 ・また、それぞれの地域において、希少種を1種ずつ確認できており、成果指標を達成した。これらの希少種が特定外来生物の影響を受けて個体数を減らさないように、引き続き防除に取り組む。					令和6年度から継続して、事業実施地域で希少種が生息し続けることができるよう、特定外来生物の防除等による保全活動を行う。					<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
										<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
										<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

# 「山の日」全国大会開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体		「山の日」全国大会実行委員会			事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	□ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	負担金											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け		分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等		[ 福井県環境基本計画 ]				
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継いでいく必要がある。						日本は国土の7割近くを山地が占める山の国であり、環境に応じて複雑かつ多様な生態系を形成しているほか、地球環境保全機能や保健・レクリエーション機能などを有している。						
[事業目的]												
「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という国民の祝日「山の日」の趣旨の浸透を図るとともに、山に関する歴史や文化の継承、環境保全、観光振興や健康増進など様々な課題の解決や「山の未来」のあり方について考える機会とするため、第9回「山の日」全国大会を開催する。												
[事業内容]												
①実行委員会/運営委員会開催日および事務局運営費 ・実行委員会の開催 2回(書面/オンライン) ・運営委員会の開催 2回(対面1回、書面/オンライン1回) ・大会PRのために県外で開催されるイベントに出展 2回  ②第9回「山の日」全国大会の開催 記念式典、歓迎レセプション、歓迎フェスティバル、記念登山、オプションツアー等を実施 8月10日(日)…歓迎レセプション、歓迎フェスティバル 8月11日(月・祝)…記念式典、歓迎フェスティバル その他(春～秋)…記念登山、オプションツアー  ③熱中症対策強化費 大型プレハブテントの設営、スポットクーラーやミストファン、扇風機の設置など												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)  -					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)  -					
市町との連携状況	県内市町と連携して実施					他県の状況	令和5年度は沖縄県において全国大会を開催。令和6年度は東京都において開催					

# 「山の日」全国大会開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	「山の日」全国大会実行委員会				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	□ 実行予算 □ 補助金 ■ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	負担金											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	20,483			(繰入) 19,983 (寄附金) 500		自然保護基金(特財)、まちひとしごと創生基金 企業版ふるさと納税						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		-	-	-	7,793	20,483	本大会の開催による増					
2月現計予算額の推移		-	-	-	9,293							
決算額の推移		-	-	-								
前年度までの 主な増減理由		-										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	第9回「山の日」全国大会の 来場者(関連イベント含む) 【延べ数】	-	-	-	-	(4,250)	-	(4,250)	記念式典等各行事の来場者見込み数			
	(目標) 実績											
活動指標	第9回「山の日」全国大会の 開催	-	-	-	-	(1)	-	(1)	全国大会を開催し、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という 「山の日」の趣旨の浸透を図る			
	(目標) 実績											
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
大会の開催準備を実施 ・第8回「山の日」全国大会(東京都)にて引継ぎ ・実行委員会の設立・開催(計2回) ・運営委員会の開催(計3回) ・大会ホームページやPR動画の作成、各種イベント等で広報活動を実施 (県内外 計14回)				令和6年度の準備を踏まえ、本大会を開催する。				□ 拡充	□ 縮減	□ 終期の見直し	見直し額	
								■ 継続	□ 休止	□ 完了		
								□ 整理統合	□ 廃止	□ その他		

# 指定管理鳥獣(ツキノワグマ)対策事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県、市町				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R13 年度
事業実施方法	直営、委託、補助金											
補助率	1/4											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 特定鳥獣管理計画(ツキノワグマ) ]						
[解決すべき問題・課題] 山際集落の過疎化や高齢化、生活様式の変化に伴う里山での人間活動の低下により、人里に近い山林が藪化し、ツキノワグマが生息しやすい環境が形成されている。そのような中、山の実りが不作の年には、ツキノワグマが餌を求めて人里に出没しやすい状況となっている。						[問題・課題を表す客観的データ] R2: 県内のクマ出没件数 1,223件 人身被害状況 12件(12人) ※山の実り不作年 R3: 県内のクマ出没件数 403件 人身被害状況 2件(2人) R4: 県内のクマ出没件数 314件 人身被害状況 0件(0人) R5: 県内のクマ出没件数 766件 人身被害状況 2件(2人) ※山の実り不作年						
[事業目的] ツキノワグマの人身被害防止のため、令和7年4月から施行する特定鳥獣管理計画(ツキノワグマ)に基づき、県によるモニタリングや捕獲事業、県民への情報提供を実施するとともに、市町による捕獲や出没防止対策等を総合的に支援する。												
[事業内容] (1)指定管理鳥獣捕獲等事業 ・県が定める管理強化区域1か所において、クマの指定管理鳥獣捕獲等事業を実施 ・管理強化区域においてカメラトラップ調査を行い、捕獲事業に伴うクマの生息状況の変化を追跡調査し、事業効果を検証  (2)市町へのクマ総合対策支援 ・市町捕獲計画に基づき個体数を減らすための計画的な捕獲事業を行う市町に対し、必要な経費を支援 ・市町が行うクマの出没抑制対策(誘引樹木の伐採等)にかかる経費を支援 ・市町の捕獲技術向上のためのアドバイザー派遣等  (3)県民への注意喚起強化 ・クマ出没情報をYahoo!防災アプリで発信できるよう既存システムを改修 ・人身被害を防ぐための注意喚起を新聞広告で掲出(2社、年4回)  (4)次期管理計画(R9~R13)策定のための調査												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 ツキノワグマ人身事故防止総合対策事業 (実績)  ツキノワグマ対策指導者の派遣、誘引樹木の伐採補助等を実施					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)  -					
市町との連携状況	毎年、ツキノワグマの行動が活発になり始める春と、冬眠前の行動に注意が必要になる秋に、市町職員、県関係機関、県猟友会等の関係者と「ツキノワグマ出没対策連絡会」を開催し、ツキノワグマの出没傾向等の情報共有と連携強化を図っている。また、ツキノワグマの市街地出没時の関係者(県、市町、警察、捕獲隊)の連携体制強化のための訓練を年3回開催している。市町職員や捕獲従事者を対象とした捕獲技術研修会や有害捕獲伴走支援業務により市町の捕獲体制や技術の向上を図っている。					他県の状況	○富山県 9,000千円 生息調査 2,000千円 堅果類豊凶調査 2,000千円 市町村への補助金(パトロール、銃購入) 5,000千円 ○石川県 5,000千円 県民向けのフォーラム開催 400千円 市町・捕獲隊向け対策マニュアル作成 4,400千円 事務費 200千円					

## 指定管理鳥獣(ツキノワグマ)対策事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之		
事業主体	県、市町				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務  <input type="checkbox"/> 法定受託事務		<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 2 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R13 年度
事業実施方法	直営、委託、補助金												
補助率	1/4												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	45,692	29,716		(繰入) 14,383	1,593	指定管理鳥獣対策事業交付金、自然保護基金(特財)							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>													
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		-	-	-	-	45,692	指定管理鳥獣捕獲等事業や市町補助メニューの新設等による増						
2月現計予算額の推移		-	-	-	13,531								
決算額の推移		-	-	-									
前年度までの 主な増減理由		-											
[成果指標等の推移]													
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	ツキノワグマ捕獲頭数 (目標)	-	-	-	-	(210)			第二種特定鳥獣管理計画(ツキノワグマ)をもとに年間捕獲目標を設定				
	実績	-	-	-	-								
活動指標	出没抑制対策実施自治会数 (目標)	-	-	-	-	(30)			市町が指定管理鳥獣対策事業交付金を活用し、クマ出没抑制対策(誘引樹木伐採や緩衝帯整備、柵の設置、出没個体の追い払い等)を行った自治会数				
	実績	-	-	-	-								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価					
クマの生息状況の調査・個体数推定を行うことで管理計画における年間捕獲目標を設定した。				令和6年度に策定、令和7年4月から施行する管理計画に基づき、個体数を減らすための捕獲を実施する。あわせて、国の交付金を活用し、市町が行う出没抑制対策などを新たに支援していく。				<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

## 年縞博物館特別展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之
事業主体	県				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務  <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度  R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営										
補助率	—										
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画 ]					
[解決すべき問題・課題]  常設展示は変化が少ないが、特別展で展示内容に変化を与え、博物館のPR、再訪促進を図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ]  年縞博物館の来館者数 来館者数: 令和3年度38,736人、令和4年度41,767人、令和5年度43,806人					
[事業目的]  水月湖年縞および平成30年9月にオープンした年縞博物館の認知度を高め、また、年縞研究の重要性について理解を深めてもらうため、特別展を開催し、年縞博物館への誘客を図る。											
[事業内容]  概要: 2014年以来11年ぶりとなる水月湖での本格的な年縞掘削(R7年6~7月予定)の成果を速報する。 調査の様子を動画と写真で紹介するとともに、掘削したそのままの「生の」年縞、「触れる年縞」、体験型コンテンツ「湖底VR映像」等を展示する。 テーマ: 「速報! 水月湖で年縞を掘った」(仮) 時期: 令和7年10月8日(水)~令和8年1月12日(月) 79日間(予定) 展示構成: ①令和7年の水月湖での年縞掘削(掘削・分析のダイジェスト動画、調査風景写真を解説とともに展示) ②実物の研究サンプルと体験型コンテンツ i) 掘りたての「生の」年縞を展示      ii) 樹脂封入した「さわれる年縞」を展示 iii) 「湖底VR映像」で湖底を探索      iv) 研究用試料(試験管、年代サンプル等)を展示 ③令和7年現在の年縞研究の成果をパネルで一挙紹介 ☒隣接の若狭三方縄文博物館では年縞の調査道具に関する特別展を同時開催  記念シンポジウム: 特別展開期中に実施 ○題目 「世界の中心とその反対側で年縞を掘ってきた話」(仮) ○講師 中川毅氏(同教授、プロジェクト全体を総括)、北場育子氏(同准教授、グアテマラでの年縞掘削を紹介)、山田圭太郎氏(立命館大学助教、水月湖での年縞掘削を紹介) ○日時 令和7年11月9日(土)(予定) 場所: リブラ若狭											
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 10,000人					
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有      事業名 年縞博物館開館記念事業 (実績)  平成30年9月に年縞博物館が開館するに当たり、世界の年縞の研究・教育の拠点として、年縞の魅力を県内外に発信するため、特別企画展を開催					関連事業の有無・ 役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有      事業名 年縞博物館資料収集事業 (役割分担)  収集した資料等を特別展等で公開			
市町との連携状況	若狭三方縄文博物館との合同特別展の開催					他県の状況		-			

## 年縞博物館特別展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	2,232	1,116			1,116	新しい地方経済・生活環境創生交付金						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	3,983	3,746	2,379	3,725	2,232	テーマ変更に伴う外部からの展示品借用、展示品製作の減						
2月現計予算額の推移	3,649	2,936	2,379	3,725								
決算額の推移	3,649	2,827	2,338									
前年度までの 主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(R5)5周年記念によりシンポジウムを魅力向上事業へ移動</li> <li>・(R6)シンポジウムを魅力向上事業から移動</li> </ul>											
[成果指標等の推移]												
区 分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	特別展開催期間中の来館者数 (目標)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	R6特別展会期 10/2~1/6			
	実績	12,310	7,810	9,157	14,515							
活動指標	特別展開催件数 (目標)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)				
	実績	1	1	1	1							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
特別展を開催することにより、博物館のPR誘客を図った。R6年度は、大型旅行キャンペーン(北陸DC)の時期に合わせて開催し、成果指標の目標を上回って達成した。				R7年に行う水月湖年縞掘削と研究を踏まえ、“今”福井県でしか見ることができない最新の研究を紹介し、来館者数増加を図る。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	1,493	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 年縞研究を活かした年縞博物館の魅力向上事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営、委託、補助金											
補助率	定額											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]					関連する県の計画等		[ 福井県環境基本計画 ]				
[解決すべき問題・課題] 11年ぶりの水月湖年縞大規模掘削とそれに伴う研究進展の機会を捉え、年縞の価値・魅力を発信する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 全国約5700の博物館等の中から日本博物館協会賞を受賞するなど、極めて高い評価を得ており、来館者数を伸ばす余地が大きい。 来館者数: 令和元年度55,232人、令和2年度42,568人、令和3年度38,736人、令和4年度41,767人、令和5年度43,806人						
[事業目的] 研究のために11年ぶりに行われる新たな年縞掘削に合わせ、掘削・研究現場の様子を公開するとともに、研究のさらなる進展により、年縞博物館の魅力向上を図っていく。												
[事業内容] ①年縞掘削・関連イベント ・掘削開始に合わせオープニング式典を開催 ・年縞研究者等によるトークショーを開催 ・周辺施設と連携し、博物館内での体験イベントを提供 ・恐竜や年縞の掘削現場を見学でき、研究者の解説が聞ける特別ツアーを実施 ・旅行会社が造成する遊覧船ツアーへの解説員派遣 等  ②情報発信・展示の充実 ・科学メディア関係者の取材支援 ・掘削、研究の成果をアーカイブし、SNS等により発信 ・新たに堆積したR6年度の層を含む最新の年縞スタンドグラスの加工・展示  ③インバウンド対応、教育旅行誘致 ・「年縞シアター」音声を多言語化(英・中(繁・簡)) ・県外旅行会社に対し教育旅行者の入館料相当額を助成、学校へのPR												
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 60,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績) -					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館特別展開催事業 (役割分担) 掘削した年縞を特別展で展示					
市町との連携状況	-					他県の状況	-					



## 年縞研究を活かした年縞博物館の魅力向上事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之			
事業主体	県				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	R7 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営、委託、補助金													
補助率	定額													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	17,081	8,540			8,541	新しい地方経済・生活環境創生交付金								
[予算額の推移等]												(単位:千円)		
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移		-	-	-	-	17,081	-							
2月現計予算額の推移		-	-	-	-	-								
決算額の推移		-	-	-	-	-								
前年度までの 主な増減理由		-												
[成果指標等の推移]														
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	来館者数 (目標)	-	-	-	-	(60,000)	(60,000)	(60,000)	年縞博物館の来館者数					
	実績	-	-	-	-									
活動指標	特別ツアーの実施 (目標)	-	-	-	-	(1)	(1)	(1)	恐竜と年縞を巡る歴史と地層の特別ツアー 1回					
	実績	-	-	-	-									
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価						
-				-				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額			
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了				
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他				

## 海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務  <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画 ]						
[解決すべき問題・課題] 夏季においては特に、関西、中京方面からの来館者が増加傾向である。これらの利用者が年間を通して利用してもらえるような特別企画を開催し、福井の海湖に親しみ、環境保全や海産資源消費拡大をめ ずす。						[問題・課題を表す客観的データ] 夏季の県外来館者率 R2 57.2% R3 64.0%  R4 61.4% R5 61.7%						
[事業目的] センターの活用や来館を促進するため、主催事業や出張講座、個人受入講座の内容を紹介するとともに、福井の海湖(うみ)に親しみ、環境保全意識の高揚や海産資源の消費 拡大に向けた特別企画を開催する。												
[事業内容] ①学ぼう！福井の海湖(うみ) イベント 7月12日(土)・7月13日(日) ・来館者に海岸清掃やゴミの回収・分別に協力してもらい、海湖をきれいにすることの大切さを感じてもらう。 ・回収した漂着物を使い、アート作品にリサイクルして環境保全意識を高める活動を行う。 ・磯観察や魚釣りを通して、多様な福井海の生きものを知ってもらう。 ・乗船体験を行い、若狭湾の自然・景観の素晴らしさを知ってもらい、養殖場を見学して水産資源保護について学ぶ。 ・魚つかみ、あさりつまみの前に漁業資源保護の取り組みについて解説し、魚介類の消費拡大につなげる。  ②考えよう！福井の海湖(うみ) イベント 3月7日(土)・3月8日(日) ・センターで展示していない生きものや標本の展示を行い、海の生きものや自然環境への関心と環境保全意識を高める企画展を行う。 ・海湖の環境保全や資源活用等で研究されている方を講師に招き、講演会やクイズ大会を開催して環境保全意識を高める活動を行う。 ・若狭湾の貝殻、海藻、ビーチグラス等を使ったクラフト工作を行い、環境保全意識を高める活動を行う。												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 5,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 自然体験講座開催事業 (役割分担)  当センターの自然体験講座開催事業について紹介したり、参加の予約を 受け付けたりするなど、講座参加率向上を図る。				
市町との連携状況	・県立大学、水産試験場、各地区教育委員会・小学校、各地区 観光協会等との連携 ・若狭町ソーデーマーチ、若狭町ハート&アートフェスタへの 参加協力 ・海岸清掃時のゴミ処理については、ボランティア活動として 処理費用を免除(若狭町)					他県の状況						

# 海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H27 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	1,879			(繰入) 1,879		自然保護基金(特財)						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		2,172	2,172	1,953	2,487	1,879	・イベント内容の変更による減額					
2月現計予算額の推移		2,172	2,172	1,953	2,487							
決算額の推移		2,172	2,075	1,949								
前年度までの 主な増減理由		・(R6)25周年記念イベント開催による増額										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来館者数	(目標)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	年2回イベントを開催し、海湖の環境保全の啓発をする。福井の海湖に親しみ環境保全意識の高揚を図る。		
		実績	93,669	129,184	115,712	115,983						
活動指標	イベント来館者数	(目標)	(5,000)	(5,000)	(5,000)	(6,000)	(5,000)	(5,000)	(5,000)	学ぼう！福井の海湖(うみ)(5,000人)、考えよう！福井の海湖(うみ)(5,000人)※R6年度については、25周年記念のため6,000人		
		実績	7,270	8,092	7,028	7,256						
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
活動指標はR7.2月末時点で7,256人、成果指標はR7.2月末時点で115,983人であり、ともに目標を達成している。				来館者が多くなる夏休み前に1回目のイベントを開催し、比較的来館者が少なくなる冬季に2回目のイベントを開催することで、一年を通して更なる集客を図る。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	608	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

# ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県・市町等				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営、補助金											
補助率	1/3または1/2											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等		[ 鳥獣保護管理事業計画 福井県第一種特定鳥獣保護計画(ツキノワグマ) ]					
[解決すべき問題・課題] 山際集落の過疎化や高齢化、生活様式の変化に伴う里山での人間活動の低下により、人里に近い山林が藪化し、ツキノワグマが生息しやすい環境が形成されている。そのような中、山の実りが不作の年には、ツキノワグマが餌を求めて人里に出没しやすい状況となっている。						[問題・課題を表す客観的データ] R2: 県内のクマ出没件数 1,223件 人身被害状況 12件(12人) ※山の実り不作年 R3: 県内のクマ出没件数 403件 人身被害状況 2件(2人) R4: 県内のクマ出没件数 314件 人身被害状況 0件(0人) R5: 県内のクマ出没件数 766件 人身被害状況 2件(2人) ※山の実り不作年						
[事業目的] 近年過疎化や高齢化により里山が荒廃し、里山に定着するツキノワグマが増加することにより、人の生活とクマの生息地が近くなりつつある。クマの適切な管理と人身被害防止を図るため、狩猟者育成、誘引物除去等の総合的な対策を行う。												
[事業内容] ○ツキノワグマ出没情報収集配信システム保守点検 平成27年度に構築した、ツキノワグマ出没情報収集配信システムの保守管理を委託する。  ○ツキノワグマ対策指導者の派遣 市町職員や地域住民に対し、ツキノワグマの人身事故防止対策(柿もぎや緩衝帯整備、捕獲)に必要な情報の助言等を行う者を派遣する。 ・集落内へのツキノワグマの出没時に、現地に赴き、ツキノワグマの出没要因やその除去等の対策について助言する。 ・ツキノワグマによる人身事故が発生した時に、現地に赴きその発生要因を明らかにするとともに、再発防止に向けた助言を行う。 ・平素から、誘引物となる樹木の伐採など、クマの出没に強い地域づくりへの助言を行う。  ○誘引物除去対策補助金 人の生活圏にある管理されずに放置されたままの果樹(柿や栗)等は、ツキノワグマを引き寄せ人身事故の原因となるため、ツキノワグマを誘引する可能性のある樹木等およびそれらを含むヤブの伐採に係る経費を補助する。(事業費の1/3以内または1/2以内、上限50千円または100千円)												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 75万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	□ 無 ■ 有 事業名 指定管理鳥獣(ツキノワグマ)対策事業 (役割分担)  R7から上記事業に統合し実施					
市町との連携状況	毎年、ツキノワグマの行動が活発になり始める春と、冬眠前の行動に注意が必要になる秋に、市町職員、県関係機関、県猟友会等の関係者と「ツキノワグマ出没対策連絡会」を開催し、ツキノワグマの出没傾向等の情報共有と連携強化を図っている。					他県の状況	○富山県 9,000千円 生息調査 2,000千円 堅果類豊凶調査 2,000千円 市町村への補助金(パトロール、銃購入) 5,000千円 ○石川県 5,000千円 県民向けのフォーラム開催 400千円 市町・捕獲隊向け対策マニュアル作成 4,400千円 事務費 200千円					

## ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県・市町等				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営、補助金											
補助率	1/3または1/2											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額				(繰入)		自然保護基金(特財)						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		3,770	2,849	2,137	2,137							
2月現計予算額の推移		1,938	1,984	1,607	1,337							
決算額の推移		1,775	771	856								
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(R4)誘引物除去対策補助金の補助対象者数見直しによる減</li> <li>・(R5)狩猟者育成講習会の減、指導者派遣の回数減</li> </ul>										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	誘引樹木の伐採 (目標) (100) 実績 18	(60)	(60)	(60)	(60)	(60)	(60)	(60)	補助対象件数60件			
活動指標	ツキノワグマ対策指導者の派遣 (目標) (10) 実績 3	(10)	(10)	(10)	(5)	(5)	(5)	(5)	指導者の派遣回数5回			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
成果指標、活動指標とも目標を達成できなかった。 <外的要因> 令和6年度は秋季の大量出沒が発生せず、伐採を希望する自治会が少なかったことによる。 また、春～夏の出沒数増加を受けて、被害対策指導ではなく、市町の捕獲技術伴走支援への要望が多かったため、トライアル予算を活用し捕獲アドバイザーの派遣を行ったことによる。				令和7年度以降は、「指定管理鳥獣(ツキノワグマ)対策事業」に統合し、国交付金の活用により事業内容を一部変更したうえで継続する。 誘引樹木伐採については、市町が実施主体として、事業効果が期待される自治会を選定し、誘引樹木の伐採等の出沒抑制対策を進めていく。 指導者派遣については、トライアル予算の成果を反映し市町への捕獲アドバイザーの派遣を行う。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	2,137	
								<input checked="" type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

# 年縞博物館魅力向上事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画 ]						
[解決すべき問題・課題]  年代測定の世界標準になっている水月湖年縞を展示し、教科書にも掲載されている博物館の魅力を発信する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 全国約5700の博物館等の中から日本博物館協会賞を受賞するなど、極めて高い評価を得ており、来館者数を伸ばす余地が大きい。 来館者数: 令和元年度55,232人、令和2年度42,568人、令和3年度38,736人、令和4年度41,767人、令和5年度43,806人						
[事業目的] 年縞研究・教育・観光の拠点である年縞博物館において、研究を推進し研究成果を普及啓発することで、年縞博物館の魅力を高め、北陸新幹線福井・敦賀開業を見据えた来館者の増加を図る。												
[事業内容]  (1)年縞研究の推進 ア 水月湖年縞の研究のために来県する海外研究者とともに研究を促進し、海外研究者による博物館ガイドツアーを実施  (2)年縞教育・普及の推進 ア サイエンスカフェ等の開催 年縞研究の見識を深める「サイエンスカフェ」等を開催し、年縞の魅力の理解普及・発信を促進 イ 琵琶湖博物館と連携した展示・講座 ①両博物館で互いの所蔵品を展示・紹介 ②学芸員を相互に派遣して講座等を開催 ※令和2年度開催の福井県・滋賀県知事懇談会の合意事項  (3)インバウンド対応の強化 来館者に「水月湖年縞」の価値を分かりやすく紹介する「水月湖シアター」を多言語対応												
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 60,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (実績) -					事業名		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館特別展開催事業 (役割分担) 特別展開催による来館促進、水月湖年縞の魅力普及				
市町との連携状況	-					他県の状況		-				

# 年縞博物館魅力向上事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R1 年度	事業終了予定年度(見直し年度)	
事業実施方法	直営							□ 補助金		経過年数		R6 年度
補助率	—							□ その他		6 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		1,406	4,734	4,606	1,095							
2月現計予算額の推移		950	4,734	4,606	1,095							
決算額の推移		624	3,616	3,638								
前年度までの主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(R4)水月湖年縞の教材作成、「The Best in Heritage」への参加による増</li> <li>・(R5)5周年記念により、特別展事業で開催していたシンポジウムを拡充して実施</li> <li>・(R6)5周年記念で開催していたシンポジウムを、特別展事業で実施</li> </ul>										
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来館者数 (目標)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)			(60,000)	年縞博物館の来館者数			
	実績	38,736	41,767	43,806	46,665							
活動指標	ガイドツアー、サイエンスカフェの開催 (目標)	(4)	(4)	(4)	(4)			(4)	海外研究者によるガイドツアー(1回)、サイエンスカフェ(2回)、琵琶湖博物館連携事業(1回)			
	実績	2	4	4	3							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
成果指標はR7.2月末時点実績。 活動指標は3回開催したことから概ね達成した。 <事業による要因> ・海外研究者によるガイドツアー(1回)、琵琶湖博物館連携事業(1回)を実施したほか、R6年度は、サイエンスカフェの代わりにJAXAでトップクラスの研究者を招いたシンポジウム(1回)を開催したことによる。				「年縞研究を活かした年縞博物館の魅力向上事業」に統合し、海外研究者によるガイドツアーや、サイエンスカフェの内容を工夫するなどして来館者の増加を図る。また、インバウンド対応を強化し、成果指標の達成を目指す。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	1,095	
								<input checked="" type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

# 里山文化体験講座

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H26 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 ]						
[解決すべき問題・課題]  地域のお年寄りの知識や技術を活かしながら、里山里海湖の魅力や大切さを幅広い世代に伝えることが必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 長期ビジョンアンケート 問20「将来の福井県で今より悪くなると心配すること」 ・人口減少と多くの集落がなくなること(1位)、高齢者の生活不安(3位)、地域コミュニティが希薄(4位)など、里山地域に特徴的な事項について衰退することが心配。						
[事業目的] 里山里海湖研究所の来所者に対し、地域のお年寄り(ふるさと研究員)や里山里海湖相談員を講師に、里山里海湖の伝統的な人の営みを題材とした気軽な体験メニューや周辺の自然環境を活かした体験メニューを提供し、里山里海湖の魅力幅広い世代に伝える。												
[事業内容] (1)里山里海湖研究所自然観察棟において、来所者が気軽に体験できるメニューを提供 ○体験メニュー 松ぼっくりアート、どんぐりアートなどの工作 野鳥観察、研究内容の紹介 等 ○指導者 里山里海湖相談員  (2)時節に応じた自然体験企画を開催 自然観察棟周辺の自然環境を活かした植樹や生き物観察など、来所者が縄文ロマンパーク一帯で里山文化を体感できる企画を実施する。 ○開催日 年4回(四半期に1回) ○場 所 里山里海湖研究所自然観察棟および縄文ロマンパーク周辺												
[受益者] 来所者						[想定される受益者数] 1.5万人						
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)  -					関連事業の有無・ 役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)  -					
市町との連携状況	-					他県の状況	-					



# 里山文化体験講座

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H26 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	-											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由				
当初予算額の推移			476	476	476	476						
2月現計予算額の推移			476	326	326	170						
決算額の推移			464	223	221							
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠		
成果指標	来所者数	(目標)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)			(30,000)	展示・体験メニューの充実を図り、来所者数の増加を目指す		
		実績	7,689	16,314	21,265	20,758						
活動指標	時節に応じた企画イベント数	(目標)	(4)	(4)	(4)	(4)			(4)	四半期に1回		
		実績	5	4	4	4						
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
成果指標について、R7.1月末時点で20,758人となっており、目標を達成している。				活動指標の企画イベントについて、周辺の施設でも同様のイベント活動(園芸研究センターでの梅模擬体験など)の実施が見られ定着し始めていることから、里研としての役割は果たしたと考えられるため終了。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他	476	

## 年縞博物館 首都圏等からの誘客促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 住みやすさを高める(地域力) ] 政策 [ 15 豊かで美しいふくいの環境の継承 ]				関連する県の計画等	[ 福井県環境基本計画 ]						
[解決すべき問題・課題]  教科書に掲載されている水月湖年縞の知名度を高め、教育旅行等の誘致を図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ]  県外から年縞博物館への教育旅行実績 R3年度 870人、R4年度 1,348人、R5年度 1,317人						
[事業目的]  年代測定の世界標準であり、中学校理科や社会の教科書に掲載されている「水月湖年縞」を展示・解説する年縞博物館の知名度を高め、教育旅行など年縞博物館への来館者数拡大を図る。												
[事業内容]  (1)首都圏等からの誘客促進 ア 旅行担当教員等の理解促進 首都圏等の中学校・高等学校の教育旅行担当教員等に、年縞博物館および近隣の施設、体験活動などを紹介 イ 誘客助成 県外から年縞博物館を訪問する教育旅行を催行する旅行会社に対する助成を行い、来館を促進(生徒・教員等一人につき400円助成) 福井県観光連盟とともに、首都圏等の旅行会社を通して働きかけ  (2)首都圏等への情報発信 ア 年縞博物館Web広告 年縞博物館のショート動画(60秒)YouTubeのweb広告等で発信 ※首都圏(東京、埼玉、栃木、群馬、茨城、千葉、山梨)や長野など、地理番組等を閲覧する層、全国の理科や社会教員等に対し動画配信 イ SNSキャンペーン ※ミュージアム、建築、展示デザイン、地層等に関心がある層にアピール												
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 60,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (実績)  -					事業名	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館魅力向上事業 (役割分担)  年縞研究の促進、ガイドツアーや講座等の開催					
市町との連携状況						他県の状況						

## 年縞博物館 首都圏等からの誘客促進事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額												
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位:千円)</span>												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	令和7年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		-	-	-	4,574							
2月現計予算額の推移		-	-	-	4,274							
決算額の推移		-	-	-								
前年度までの 主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	県外からの教育旅行者数 (目標) 実績	-	-	-	(1,500) 1,013		(2,000)	(3,000)	県外からの教育旅行者数			
活動指標	Web広告配信 (目標) 実績	-	-	-	(1,500,000) 1,889,228				Web配信による露出拡大による知名度向上			
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和7年度の変更点				事業評価				
成果指標はR7.1月末時点実績であり、達成しない見込み。 活動指標は公開5か月で180万人以上が視聴し、目標を上回って達成した。 <外的要因> 教育旅行は通常催行する約2年前に行き先を決めることから、初年度(R6)から直ちに数が増加するわけではないことによる				「年縞研究を活かした年縞博物館の魅力向上事業」に統合し、 R7年度に行う年縞掘削を機に、さらなる誘客を図る。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	4,574	
								<input checked="" type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		